

# 吉野川市地域公共交通活性化協議会 第3回会議 会議録

日 時 令和7年10月30日(木) 午前10時00分～午前10時37分

会 場 吉野川市役所 本館3階 大会議室

## 出席委員

吉野川市長	原井 敬
徳島大学 教授	奥嶋 政嗣
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部 部長	荒井 隆
徳島バス(株) 企画管理部 副部長	林 直人
山瀬観光(有) 代表取締役	藤田 良
(一社)徳島県バス協会 専務理事	重本 錦二
四国運輸局 徳島運輸支局 首席運輸専門官	廣瀬 渉
徳島県 生活環境部 交通政策課 課長	橋本 貴弘※
※(代理出席) 交通政策課 係長	山田 知成
徳島県 東部県土整備局吉野川庁舎 施設管理課長	津村 直樹
阿波吉野川警察署 交通課長	菊川 択司
吉野川市社会福祉協議会 事務局長	宮本 陽一
吉野川市老人クラブ連合会 会長	大石 剛久
吉野川商工会議所 会頭	坂東 謙
吉野川市商工会 会長	平内 俊三
吉野川市 教育委員会 教育長	木屋村 雅信
吉野川市 市民部 部長	上田 哲也
吉野川市 建設部 監理課長	角野 芳正
吉野川市 建設部 都市計画住宅課長	青木 健
吉野川市 産業経済部 商工観光課長	川端 俊宏

## 委任状提出委員

パブリックタクシーサービス タクシーサービスユニット ディレクター	岩城 雅弘
徳島県タクシー協会 会長	花岡 秀郎
徳島バス労働組合 書記長	岩生 大治
川田地区自治会連合会 会長	小林 俊喜
美郷地区自治会連合会 会長	松原 勲

## 事務局

吉野川市 市民部 市民生活課長	尾西 稔生
吉野川市 市民部 市民生活課 主幹兼係長	工藤 聖隆
吉野川市 市民部 市民生活課 主事	野口 真代

## 欠席委員

四国運輸局 徳島運輸支局 首席運輸専門官	齊藤 信一郎
----------------------	--------

## 議 題 協議事項

報第1号 吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について  
報第2号 バス利用者の実態調査について  
議第1号 本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について

### 1. 開会

(事務局 尾西課長)

ご案内の時刻が参りましたので、ただいまから、吉野川市地域公共交通活性化協議会第3回会議を開会いたします。

それでは開会にあたりまして、会長よりご挨拶申し上げます。

(議長 原井市長)

皆さんおはようございます。

本日は第3回目となります、吉野川市地域公共交通活性化協議会の会議ということで、委員の皆さまには、平日の日中お忙しい時間ぐらいお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

作況の会議につきましては、協議事項にもあります通り、先般市民アンケートを行いましたので、その集計の結果の報告についてと、来月11月にバス利用者の実態調査ということで、バスを使われている市民の方にアンケートをとりたいというところでもありますので、その報告についてと、そして、それらを踏まえた上での公共交通の本市の目指すべき方向性について、皆様方に確認をしていただくという内容となっております。

引き続きコンサルタントとして、本業務に携わっていただいておりますエイト日本技術開発様と連携をさせていただきながら、本市の公共交通の計画をこれから策定して参りたいという風に思っておりますので、皆様の引き続きのご協力のほどをよろしくお願い申し上げます、挨拶にかえさせていただきます。

それでは本日もよろしくお願いいたします。

(事務局 尾西課長)

ありがとうございます。

本日の委員出席状況についてですが、岩城委員、花岡委員、岩生委員、小林委員、松原委員が会長委任をされてのご欠席となります。また、齊藤委員からも体調不良によりご欠席とのご連絡がありました。また、橋本委員におかれましては、山田様に代理出席をいただいております。先ほど平内委員から少し遅れるとご連絡がありました。

それでは、議事進行に移りますので原井会長よろしく願いいたします。

## 2. 議題

(1)報第1号 吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について

(議長 原井市長)

それではここからは私の方で進行をさせていただきます。

まず、本会につきましては、委員の皆様の過半数の方にご出席をいただいておりますので、設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告させていただきます。

それでは、報第1号「吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について」事務局よりご報告をお願いします。

(事務局 工藤主幹)

それでは報第1号「吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について」ご報告申し上げます。

第2回会議において、可決いただいた吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査の実施結果及び公共交通事業者様にヒアリングを実施した結果についてのご報告となります。

別にお配りしてございます資料1の右肩番号1-1をご覧ください。

こちらは市民アンケートの調査概要と回答いただいた方の属性をお示しております。アンケート調査票の発送数3000に対し、郵送分736票、Webでの回答数371件、計1107票を回収し、回収率は36.9%でございました。

回答者の属性としては、男女、居住地、年代、職業の割合や運転免許証や車の保有状況、最寄りのバス停までの移動手段及び徒歩での所要時間が示されております。

続いて、1-2をお願いいたします。

日用品の買い物先についての年代別、地域別回答及び買い物時の交通手段についての回答結果をお示してございます。分析結果は青枠内に記載しております通りとなっておりますので、ご高覧ください。なお、移動時の問題点として、「問題ない」と回答された方が53.7%で最も高かったのですが、次いで、「今は問題ないが、将来を考えると不安」と回答された方が多かったことから、今後自動車以外の交通手段について検討していく必要があると思われ

おめくりいただいて、1-3 をお願いいたします。

ここでは、通院先、通勤・通学先についての回答をお示ししてございます。こちら分析結果につきましては、青枠内に記載の通りでございますので、ご高覧をお願いいたします。

引き続き、1-4 をお願いいたします。

ここでは移動での困りごと、自動車を運転する方への運転の状況、日常の移動に関する満足度についての回答をお示ししてございます。外出時に移動手段で困ることだとか、ある場合の手段は何か等についての分析結果を青枠内に記載しておりますので、ご高覧ください。

続いて、おめくりいただいて、1-5 をお願いいたします。

ここでは公共交通の利用頻度、バスをより利用しやすいものにするために必要な改善についての回答をお示ししてございます。JR、徳島バス及び美郷代替バスの利用頻度についての回答から、残念ではございますが、現状では公共交通そのものの利用頻度が低いことが読み取れます。

また、バスに対する必要な改善意見をいただいた結果、各家庭からバス停間の距離、いわゆるファーストワンマイルの解消が利用者の考える最大の改善策となっております。

続きまして、1-6 をお願いいたします。

ここでは、本市の公共交通サービスが目指すべき方向性や財政負担についてお示ししてございます。これによると、市内外の主要な施設に移動しやすい公共交通ネットワークの構築を目指すべきという意見が最も多く、次いで市内中心部へ移動しやすい公共交通ネットワークの構築となっております。

また、公共交通に対する財政負担への意見は、年齢層、居住地域により、青枠内のような傾向が示されておりました。

最後に 1-7 をお願いいたします。

これは新たな公共交通制度の一例として、いわゆる AI オンデマンド交通について意見をいただいた結果が示されております。こちら詳しくは青枠内の分析結果をご高覧ください。

以上が吉野川市地域公共交通かかるアンケート調査の実施結果報告となります。

続きまして 1-8 をご覧ください。

ここからは事業者様へのヒアリング結果ということになりますけれども、こちら 8 月 21 日から 27 日の間で実施いたしました公共交通事業者様へのヒアリング結果となっております。

調査概要記載欄の調査概要欄記載の通り、JR 四国様、徳島バス様、ノビルタクシーサービス、山瀬観光様、三郷タクシー様、以上の 5 事業者様にご協力いただき、対面による聞き取り調査を実施いたしました。なお、山瀬観光様は本市代替バスの運行業務受託事業者であり、三郷タクシー様は本市スクールバスの運行業務受託事業者でもあります。

この結果、それぞれの公共交通機関が抱える問題点を把握することができました。

以上、簡単ではございますが、こちらが公共交通事業者様へのヒアリング結果報告となります。

以上でございます。

(議長 原井市長)

それでは、ただいま報告のありました報第1号「吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について」につきまして、ご意見、ご質問がありましたら挙手の上、ご発言いただきたいと思えます。

—意見・質問なし—

(議長 原井市長)

それでは特にご意見ないようでございますので、報第1号議案につきまして、原案通り承認することにご異議はございませんか。

—「異議なし」と呼ぶ者あり—

(議長 原井市長)

それでは異議なしと認められますので、報第1号「吉野川市地域公共交通に係るアンケート調査等の結果について」につきましては、原案のとおり承認させていただきます。

(2)報第2号 バス利用者の実態調査について(議長 原井市長)

続きまして、報第2号「バス利用者の実態調査について」ということで事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 工藤主幹)

それでは、報第2号「バス利用者の実態調査について」ご報告申し上げます。別途でお配りしてございます資料、バス利用者アンケート調査と書かれた資料をご確認ください。

バス利用者の実態調査についてでございますが、これは本市内を運行するバスの利用実態を把握するとともに、既存の交通サービスに対する改善ニーズ及び利用継続に関する意向を把握することを目的として、徳島バス様のご協力のもと、徳島バス鴨島線の利用者を対象として、11月初旬から下旬までの間、バス車内及び営業所への調査票の備え付けやWebアンケートフォームの2次元コードを記載したチラシを掲示して実施するものでございます。

お手元にお配りしてございます資料がこの調査で使用する調査票及び掲示するチラシの現物でございます。

以上でございます。

(議長 原井市長)

それでは、報第2号「バス利用者の実態調査について」につきまして、ご意見、ご質問がありましたら挙手の上、ご発言いただきたいと思います。

—意見・質問なし—

(議長 原井市長)

それでは特にご意見ないようでございますので、報第2号議案につきまして、原案通り承認することにご異議はございませんか。

—「異議なし」と呼ぶ者あり—

(議長 原井市長)

それでは異議なしと認められますので、報第2号「バス利用者の実態調査について」につきましては、原案のとおり承認させていただきます。

(3)議第1号 本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について

(議長 原井市長)

続きまして、議第1号「本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について」ということで事務局より説明をお願いします。

(事務局 工藤主幹)

それでは、議第1号「本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について」ご説明申し上げます。

実施したアンケート調査等の結果をもとに、現在本市が抱える地域公共交通の課題の洗い出し及び目指すべき方向性について協議することを目的としてまとめたものが、資料右肩番号 1-10 から 1-12 となります。まず、1-10 をご覧ください。

本市が抱える地域公共交通の課題として考えられる事項をお示ししてございます。

まず、本市のまちづくりにおける公共交通の方針でございますが、策定しようとしております地域公共交通計画には上位関連計画があり、そちらとの整合性を考慮する必要がございます。

例えば、「吉野川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における高齢者等の交通弱者の移動手段確保や、交通弱者を含め、すべての市民が安心して暮らせるまちや、「吉野川市都市計画マ

スタープラン」における鴨島駅周辺を中心とする拠点と各地域の生活拠点を結ぶ公共交通ネットワークの形成による連携強化を図り、誰もが移動しやすく、歩いて暮らせるまちづくりの他、「吉野川市立地適正化計画」、「徳島県次世代地域公共交通ビジョン」、「徳島県地域公共交通計画」などがございます。

そこに今回のアンケート調査等の結果により把握できた本市の現状から 1.高齢者等の移動手段の確保、2. 公共交通利用の促進、3. 交通不便地域の解消と地域の実情に応じた交通体系の構築、4. 地域施設及びまちづくりとの連携を本市が抱える 4 課題として設定したものです。

続きまして、1-11 をご覧ください。

この4課題を基礎として地域公共交通計画の柱となる 3 つの基本方針、目標(案)をお示しするとともに、4 課題と 3 つの基本方針の対応表をお示したものでございます。

以上、簡単ではございますが、本市地域公共交通の課題及び目指すべき方向性についてのご説明となりますが、参考といたしまして、1-12、国の地域公共交通に関する方針をお示ししてございますので、こちらはご高覧をお願いいたします。

以上でございます。

(議長 原井市長)

それではただいまの議第 1 号「本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について」、皆様方から何かご意見ご質問等ございましたら、挙手にて発言をお願いいたします。

(奥嶋委員)

前半の資料にあった 1-3 の内容として、今は問題がないと言われているんですが、将来を考えると不安という方が 45%いらっちゃって、将来車を運転できなくなると、生活が困難になると不安を抱えているです。

また、1-4 でも日常の移動に関する満足度について、世帯に車がないと満足度が下がる状況になっています。

1-6 を見ると、財政負担について若い世代でも財政負担を増やしたらという意見が高齢の世代より多い傾向があります。もちろん財政負担を増やす意見については割合は高くはありませんがそのような傾向があります。

1-7 のページにある AI オンデマンド交通に関しても、導入するべきは 5 割は超えてはいないものの導入意向が高いということで、後期高齢者の方は AI の交通に乗りたくないと思われる方が多いでしょうし若者は乗らないとは思いますが、他の世代で導入するべきがここまで多いとは想定しておりませんでした。導入するべきという意見が多いのですぐに導入するべきかどうかは別にして、AI オンデマンド交通は交通困難地域の交通利便性を著しく上げるものであり、自動車に乗れない人に移動手段を与えるものですから、地域公共交通計画に

は検討する方向性で考えていくことを記載してはいかがでしょうか。基本方針や目標については問題ないと思いますが、その中で将来の話、今すぐにと話ではないが、今交通不便な地域の方々が自動車を利用できなくなった時の為に生活交通として利用できる交通手段を確保していく事も必要なのではと思いました。

(議長 原井市長)

ご意見ありがとうございました。

それでは、その他にご意見・ご質問等ございますでしょうか。

—意見・質問なし—

(議長 原井市長)

そうしましたら、ご質問の方はなきようでございますので、この議第1号について原案の通り、可とすることにご異議はございませんでしょうか。

—「異議なし」と呼ぶ者あり—

(議長 原井市長)

異議なしと認められますので、議第1号「本市地域公共交通の課題及び目指すべき方向性について」は原案通り、可決とさせていただきます。

なお、こうした方向性について、この会議に関わらず何かご意見あれば、いつでも事務局の方にお問い合わせをいただければということですので、よろしくお願い申し上げます。

以上で本日予定しておりました協議事項については終了させていただきます。

### (3)議第1号 本市地域公共交通の課題および目指すべき方向性について

(議長 原井市長)

その他として委員の皆様から何かご意見又はご報告等ございますか。

(林委員)

徳島バスの林です。お配りさせていただいたチラシについてですが、2026年3月中旬に県内ほぼ全域の路線バスでICOCAが導入になります。

交通系ICカード全国総合利用サービス対応ということで、ICOCA以外でもSuicaやパスモなど様々な地域の交通系ICが使えるようになり、県内の方も便利になると同時に県外

からのビジネス利用者や観光、インバウンドの方々が、今までバスでは現金しか使えませんでしたので、キャッシュレスで対応ができるようになることで非常に便利になります。

ICOCAの場合、アプリも対応となりますので、カードを購入していただくなくてもスマホをお持ちの方であればアプリをダウンロードすることによって窓口に行かなくてもチャージができますし、カード発行預かり金(デポジット制度)もアプリの場合は必要ないので、これをうまく活用していただいて、バスに乗っていただけたらというところでございます。

また、今までの紙の定期券が、ICOCA のシステムを使った定期となりますので、区間定期から金額式定期に変更したいと考えております。

これまでは、吉野川市役所北から徳島駅への定期券を持っているお客様が、別の系統に乗ることはできませんでした。この区間は570円区間ですが、金額式になると、徳島駅からゆめタウンは450円区間なので同じ定期券で乗り降りができます。さらに、イオンモールまで250円区間なので、イオンモールに行くのもこの定期券が使えます。

持っている定期で全部乗り降りができるという形で、定期券の幅が広がるような施策をうっていかうとしています。

バスの利用が少なく吉野川市さんなどにも負担をしていただいておりますので、利用が増えることによって、負担金を抑えつつ路線が維持できます。ゆくゆくはJRさんとも連携できたらと思い、ICOCAを徳島バスでは選択したという形となっております。

また、具体的な開始日などは年明けぐらいに発表できると思います。この機会にバスを利用していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(重本委員)

他のアプリも使えますか。

(林委員)

アプリ対応しているものはSuicaくらいかと思いますが、Suicaのアプリも利用できません。

ただし、定期券など徳島バスで使う券に関してはICOCAでないと対応できませんのでその点だけご注意ください。普通の乗車にかかる支払いについては10カード、モバイルSuicaもご利用いただけます。

(議長 原井市長)

ご報告ありがとうございました。

今の徳島バスさんのご報告について何かご質問等ございますか。

(菊川委員)

定期券のチャージ機は徳島駅前だけに導入されるのですか。鳴門などに設置する予定はございませんか。

(林委員)

今のところは定期券の発行となれば営業所窓口だけですが、コンビニやバス車内でもチャージができます。

チャージ機を置くのは徳島駅前だけで、鳴門であれば鳴門営業所で定期券をご購入いただけます。定期券を買える場所は非常に少ないので高校生や通勤で使われる方はモバイルをご利用いただき、中学生などがカードで発行する場合には今までのように窓口で発行していただく必要があります。

(菊川委員)

バスの車内のチャージについて、走行中もチャージできるのでしょうか。

(林委員)

両替と同じ考え方で、車内事故防止のため、停車時に利用してもらうようにお願いする形になります。

もちろん走行中もチャージできなくはないんですが、車内で起きた事故は乗務員の責任という形になりますので、お客様への案内としては停車したときにお願いしますという形になります。

(菊川委員)

走行中の両替は危険なので、何か機械の設定などで走行中にはチャージできないような設定になっていけばと思います。

(林委員)

交通安全運動の機会であったり、7月だったら車内事故防止強化月間で駅前でビラを配ったりしているのですが、案内はさらに徹底していきたいと思います。

(坂東委員)

吉野川商工会議所の坂東と申します。

学生がJRで徳島市まで行って、例えば徳島市立高校であれば駅からバスで通学することになると思います。バスはICOCAが対応することになりますが、JRさんは今後どのようなご予定でお考えになられてるのかというのをお聞かせいただけたらと思います。

(荒井委員)

JR 四国の荒井でございます。ご質問ありがとうございます。

ICOCA は香川県内でしか使えない状況でして、今後の展開についても考えていないわけではないのですが、コスト面を踏まえながら検討はしている状況です。

現在 JR 四国では、QR コードでご利用いただくアプリ「スマート駅ちゃん」をご利用いただいて、年会費も無料ですので、四国内であればそちらの方をご利用いただきたいなと思います。

券売機のない駅もありますので、現時点で言えばスマート駅ちゃんを使っていたきたいというところでございます。

(議長 原井市長)

それではその他に何かご報告等ございますでしょうか。

それではなきようでございますので本日の議題についてはこれですべて終了させていただきます。

スムーズな進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。事務局に戻します。

(事務局 尾西課長)

原井会長ありがとうございました。

以上をもちまして、吉野川市地域公共交通活性化協議会第 3 回会議を閉会いたします。

委員の皆様、お疲れ様でした。

閉会 午前10時37分